柑橘

４月の農作業管理

指導販売課

「一果入魂」こだわりを持った生産管理に努めよう

管理作業を計画的に行い、安定生産をめざしましょう。

作業１　枯れ枝の除去・樹勢維持及び樹勢回復対策

- 寒波の影響で枯れ枝が多くなっています。春芽が発芽を始めたら除去しましょう。
- 春肥をまだ施用していない園は早急に施用しましょう。
- 尿素 500 倍+リンクエース 2,000 倍を 1 週間から 10 日間隔で開花まで散布しましょう。

作業２　極早生・早生の夏肥

標準施肥量　（成木　収量目標３ｔ/１０ａ）

品種	施用時期	柑橘１号	柑橘５号
極早生	５月上旬	５袋	７袋
早生		６袋	８袋

作業３　病害虫防除

昨年そうか病の発生した園では防除を行って下さい。

時　　期	病害虫	防除薬剤
３月下旬～４月上旬 （芽が１㎝程度伸びた時）	そうか病	デランフロアブル　　1,000 倍

作業４　除草

地温の上昇にともない春草の生育が活発になります。草と樹の養分競合を防ぐため春草の除草をおこないましょう。

使用薬剤	適用雑草名	１０ａ当たり使用量		
		薬量	希釈水量（通常）	希釈水量（少量）
ラウンドアップマックスロード（吸収移行型）	１年生雑草	200ml～500ml	50～100ℓ	5ℓ、25～50ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml		
サンフーロン液剤（吸収移行型）	１年生雑草	250ml～500ml	50～100ℓ	25～50ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml		
バスタ液剤（接触型）	１年生雑草	300ml～500ml	100～150ℓ	30～40ℓ
	多年生雑草	500ml～1,000ml		

※少量散布（5ℓ/10a）は専用のラウンドノズルＵＬＶ５を、少量散布（25～50ℓ/10a）はラウンドノズルＬＶ２５を使用して散布。

作業５　苗木の管理

●支柱立て

生育を促進するためには必ず支柱を立て、結束をしましょう。

●肥料の施用

発芽がはじまってから肥料を施用します。

柑橘有機配合１号（４月～7 月の間に月１回施肥を行います。）
１年生　６０～７０ｇ／１樹／１回
２年生　７０～９０ｇ／１樹／１回
又は
スーパーＳＲコート７４５（定植１か月後）
６００ｇ～７００ｇ／一樹

●病害虫防除

アブラムシ等の発生に注意し、発生が見られたら防除を行いましょう。

エカキムシの防除は夏芽の発生時期より防除をおこないます。

発生時	アブラムシ	コルト顆粒水和剤　4,000 倍

●葉面散布

生育促進、緑化促進のため５月中旬と下旬に尿素 500 倍の葉面散布の実施

●地上部の切り返し（確認）

コンパクトな樹づくり、早期結果のためには、植え付け時地上部の切り返し（地上 30～40 ｾﾝﾁ）を行っておく必要があります。切り返しが十分でない場合再調整しましょう。

落葉果樹

梅の管理

●アブラムシ類･･･発芽後　モスピラン顆粒水溶剤　２，０００倍（収穫前日まで）

●黒星病防除…４月上旬新梢伸長盛期　トップジンM水和剤　1,500 倍

５月上旬果実肥大盛期　ストロビードライフロアブル　2,000 倍

キウイフルーツの管理

●花腐細菌病対策

薬剤防除　時期…４月上旬～５月上旬

防除薬剤…コサイド 3000　2,000 倍

環状はく皮

多発園では開花約１ヶ月前に５㎜幅で地際から６０～１５０㎝の主幹部に施す。

水稲

コシヒカリの播種

準　備…種子消毒について

ＪＡより購入された種子については消毒済みのため、種子消毒の必要はありません。

播種時期…４月下旬～５月上旬

播種量…１５０ｇ（１箱あたり）

※播種量が多いと苗が貧弱になり、また植えつけ本数が多くなるため、病害虫の発生や倒伏の原因になります